

第23回 ITS世界会議

23rd World Congress on Intelligent Transport Systems, in Melbourne, 2016

萩原 剛* 牧村和彦**

By Go HAGIHARA and Kazuhiko MAKIMURA

1 はじめに

ITS世界会議 (World Congress on Intelligent Transport Systems) は、欧州 (ERTICO)、米州 (ITS America)、アジア太平洋 (ITS Japan) の世界3地域のITS団体が連携して毎年共同で開催する世界会議であり、第23回会議はオーストラリア・メルボルンにて2016年10月10日～14日の日程で開催された^{1),2)}。本稿ではその概要を報告する。



図-1 メルボルン中心部のトランジットモール

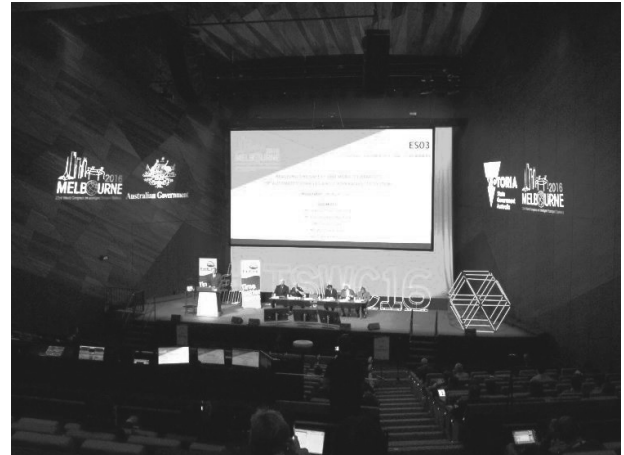


図-2 第23回ITS世界会議 会場の様子

2 第23回ITS世界会議の概要

第23回ITS世界会議は、英国エコノミスト誌において6年連続でMost Liveable Cityに選ばれた都市であるオーストラリア・メルボルンの中心部を流れるヤラ川 (Yarra River) 沿いに立地する Melbourne Convention and Exhibition Centreで開催され、73ヶ国から約1万1千人が参加した。

(1) 展示発表

展示発表には278の企業・団体が出展し、各国の行政機関、国際団体等によるITS関連施策の紹介や、自動車メーカー、電機機器メーカー、情報関連企業等による自社の関連技術の展示等が行われていた。

(2) セッション

セッションは下記の7つのトピックに分けて開催された。

- 1) Challenges and Opportunities of Big Open Data
(ビッグデータ・オープンデータの挑戦と可能性)
- 2) Smart Cities and New Urban Mobility
(スマートシティと新しい都市のモビリティ)
- 3) Vehicle and Network Safety
(車両とネットワークの安全性)
- 4) Environmental Sustainability
(環境的な持続可能性)
- 5) Automated Vehicles (自動運転)
- 6) Mobile Applications (モバイルアプリケーション)
- 7) Future Freight (将来の物流)

多くのセッションでは、「持続可能性」と「スマートシティ」が主要なキーワードとして据えられ、MaaS (Mobility as a Service)、シェアリング、オンデマンド、自動運転等や、これらを融合させた取組等の議論が数多くなされている印象にあった。

また、各国政府が次世代のモビリティに関するビジョンを掲げ、そのために積極的に投資を行っている

* 道路・経済社会研究室 研究員 博士 (工学) ** 企画戦略担当部長 博士 (工学)

現状が紹介されており、世界の動きの速さを感じられる場であった。

ITSに関する政策的、技術的動向に関するセッションが多くを占めた一方で、様々な分野の研究者による学術的な発表も多くなされており、例えば「アリのコロニー」から自動運転システムや協調ITSへの示唆を得る、といった独創的な論文発表が見られた。

(3) テクニカルツアー

本会議では高速道路や港湾施設、交通管制センターなどへのテクニカルビジット・テクニカルツアーが多く開催されており、筆者（萩原）はビクトリア州道路局（Vicroads）の「スマートワークゾーン（かしこい道路維持管理）」に関するテクニカルツアーに参加した。

説明によれば、Vicroadsでは「よりスマートに、より安全に、より早く（Smarter. Safer. Sooner.）」を目標とした道路維持管理を推進しており、信頼性の高い情報を最新の技術に基づきリアルタイムで提供できるようなシステムを、費用対効果が良い形で構築することをめざしている。

現地では、ドライバーへのよりスマートな情報提供を可能にする機材として、可搬式の数値表示板（図-3）やWi-Fiパケットセンサー（図-4）を紹介していた。可搬式のWi-Fiパケットセンサーは、自動車利用者のスマートフォン等からWi-Fi環境を探索するために発信される電波（プローブリクエストパケット）から得られる機器特有の情報（MACアドレス）を取得するセンサー機器であり、このセンサーを複数箇所に設置することで、設置箇所間の所要時間を計測することができる。我が国では数年前から実験的な取組が進められつつある状況である³⁾が、Vicroadsでは既に所要時間情報取得に実用化されているとともに、セッションの議論の中では、既に多くの国で技術の実装が行われている状況にあることが指摘されていた。

3 おわりに

第24回会議は、カナダ・モントリオールにおいて2017年10月29日（日）～11月2日（木）の日程で開催される⁴⁾。会議テーマは「Next Generation Integrated Mobility Driving Smart Cities」と設定されており⁴⁾、活発な議論がなされることが期待される。



図-3 可搬式の数値表示板



図-4 可搬式のWi-Fiパケットセンサー

参考文献

- 1) 第23回ITS世界会議ウェブサイト,
<http://www.itsworldcongress2016.com/>
- 2) ITS Japan ウェブサイト,
<http://www.its-jp.org/>
- 3) 例えば、西田・足立・牧村・森本・上善: Wi-Fiパケットセンサーによる交通流動解析, 土木計画学研究発表会, Vol.49, 2014.
- 4) 第24回ITS世界会議ウェブサイト,
<http://itsworldcongress2017.org/>